

課題番号	応募者名	事業名	評価者の主なコメント	評価者のコメントに対する回答
J1902	松下電工株式会社	FRPの亜臨界水分解技術の実用化開発	長年の成果を実用化の段階に発展させる時期にきている。目処はついているのか。	分解プロセスについては、本事業にて、目標の回収率が得られました。今後、自社にて導入予定の分解後の生成物の分離精製プロセスも含めてプロセス実証評価を行うと同時に、再生品品質評価をすすめ、実用化を目指します。
			実用化が急がれる。FRP製の浄化槽ユニット、浴室ユニットの処理施設を稼動することを前提に検討して欲しい。	まずは浴室ユニットについて、処理技術として、分離精製プロセスも含め、本規模にて確実に検証します。浄化槽ユニット等の製品については反応条件の検討等基礎データの蓄積を並行して実施します。
			採算性のある形で実用化させるには、なお課題が残っているように感じられる。	採算性の精度向上のために、実証試験によりコストの目論見値の検証をすすめます。また、実用化に際して使用性や品質安定性の観点からの課題も抽出していきます。
			運転期間がRun回転5回と、極めて少ない。さらなる実験時間が必要と思われる。	平成20年度に運転回数を増やしデータの蓄積を図ります。繰り返し運転は分離精製プロセスが完成後、あわせて実施・評価します。